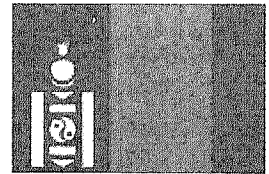


# つながりを感じよう！



Mongolia

千葉県

森 裕紀子

千葉県立銚子特別支援学校

- 担当教科：全教科
- 実践教科：社会
- 時間数：9時間
- 対象：高等部1～3年生
- 対象人数：5名

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・異文化への興味関心を高める。
- ・十人十色の考え方やものの感じ取り方があるということに気づかせる。
- ・人とのつながりの大切さを体感し、日々の生活におきかえて考える機会とする。

## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	【海外に目を向けよう】 世界の国々を知ると共に、様々な考え方やものの感じ取り方があるということを知る。	○知っている国名を書き出して発表する。 ○みんなが発表した国の場所を世界地図で探す。 ○フォトランゲージをする。 ・好きな写真を選んで理由と共に発表する。 ・グループに分かれて、幸せそうだと思う順番に並べて理由と共に発表する。	・国名記入用プリント ・白黒コピー世界地図 ・「地球家族」から6カ国の写真
3	【モンゴルについて知ろう】 フォトランゲージを通して、日本とモンゴルの同じところや違うところに気づくと共に、思い込みや想像で物事を判断していることがあるということを実感する。	○「モンゴル」から連想する言葉を発表する。 ○フォトランゲージをする。 ・どれがモンゴルで撮ってきた写真を当てるゲーム。実際は全部モンゴルで撮った写真。	・モンゴルで撮影した写真
4	【日本とモンゴルについて知ろう】 日本とモンゴルを比較することで、日本と外国の違うところや同じところ、似ているところに気づく。 外国の文化への興味関心を高めるきっかけとする。	○16枚のカードを日本とモンゴルに分ける。内容は、「お金、服、楽器、ご飯、あいさつ、国旗、面積、人口」の8個。 実物や本を参考にして正解を確かめる。 ○馬頭琴の演奏を視聴する。 ○モンゴルクイズをしてモンゴルについて知る。 ○スーテーツァイを飲んだりモンゴルのお菓子を食べたりする。	・モンゴルカード8枚、日本カード8枚 ・日本円とモンゴルTgの実物 ・指差し会話帳・地図帳 ・馬頭琴の演奏映像 ・クイズの問題用紙 ・スーテーツァイ（モンゴルのお茶） ・モンゴルのお菓子
5	【貧困や国際協力について考えよう】 貧困について考えると共に、自分ならどのような支援や協力の仕方をするかを考える。	○孤児院の笑顔の子どもと路上の子どもの写真をみて感想を発表する。 ○グループごとに貧困カードをサークル状に並べ、並べた順番の理由を発表し合い、他のグループの考え方にも耳を傾ける。 ○貧困のサークルを断ち切るためにはどうすればよいかを考え発表する。 ○青年海外協力隊のインタビュー映像を見て、実際の人的支援の様子を知る。	・孤児院の子どもたちの写真 ・ストリートチルドレンの写真 ・貧困カード ・青年海外協力隊のインタビュー映像

6 7	<p>【ボランティアヘルスワーカーの取り組みを体験しよう】</p> <p>モンゴルボルガン県のボランティアヘルスワーカーの取り組みの模擬体験活動を通して、人とのつながりの大切さや助け合って生きていることなどに気づく。</p>	<p>○模擬体験として、ワーカーがいない状況という状況の2つの状況を演じる。</p> <p>○2つの異なる状況を模擬体験しての感想や、2つを比べて感じたことなどを書いて発表する。</p> <p>○人とのつながりについて、普段の生活や卒業後の生活に置きかえて考え、体験談を発表する。</p>	<p>・病院図の模造紙</p> <p>・役割シート</p> <p>・名札</p> <p>・台本</p> <p>・感想シート</p> <p>・感想記入用模造紙</p>
8	<p>【自分たちにできる国際協力について考えよう】</p> <p>今までの授業全体を振り返りながら自分が感じたことを再確認すると共に、身近な取り組みから国際協力ができることを知る。</p>	<p>○今までの授業について振り返り、自分や友達を感じたことを確認し、自分の中にフィードバックする。</p> <p>○一番心に残っていることや感じたことを発表し合い、様々な感じ取り方があることを知る。</p> <p>○自分にもできる国際協力について考え発表する。</p> <p>○※STAND UP TAKE ACTIONの存在を知る。</p>	<p>・前回までの授業で用いた掲示物等</p> <p>・振り返りシート</p> <p>・「スタンドアップ」説明用の模造紙</p> <p>・宣言シート</p> <p>・「家庭でできる温暖化対策」プリント</p>
9	<p>【スタンドアップをしよう】</p> <p>一人ひとりが身近な取り組みから行動することも立派な国際協力であることを実感し、授業を通しての達成感を味わう。</p>	<p>○「STAND UP TAKE ACTION」の「私は立ち上がって△△します」という宣言シートに各自が取り組もうという内容や意気込みを書く。</p> <p>○実際にスタンドアップをして写真を撮り、「STAND UP TAKE ACTION」に参加する。</p>	<p>・宣言シート</p> <p>・「家庭でできる温暖化対策」プリント</p> <p>・「STAND UP TAKE ACTION」宣伝ポスター</p>

※「STAND UP TAKE ACTION」 <http://www.standup2015.jp/index.html> 参照

### 〔3〕授業の詳細

#### 1、2時限目：【海外に目を向けよう】

導入として、知っている国名を書き出して発表しあったり世界地図で国の場所を探したりすることで、普段あまり勉強したり触れたりする機会のない「外国」について身近に感じることができるようにした。

次に、「地球家族」の本を使用してフォトランゲージをした。

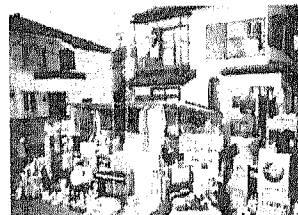
【ドイツ】

【メキシコ】



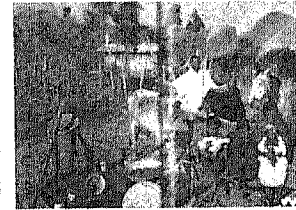
【日本】

【サモア】



【エチオピア】

【アルバニア】



それぞれの写真がどこの国かは明かさずに、「ドイツ」「メキシコ」「日本」「サモア」「エチオピア」「アルバニア」の6枚の写真を使用した。(②のランキング終了後に国名を明かして、世界地図でどこにあるかを皆で探した)

①自分が一番好きな写真を選び、理由と共に発表した。

- ・自分とは異なる生活環境の写真に魅力を感じて、サモアやメキシコを選んだという生徒が多かった。
- ・家族が見つめ合っていておもしろいという理由で、人に焦点をあてて選んだ生徒もいた。

②2グループに分かれて、幸せそうだと思う順番に並べて、理由と共に発表した。

- ・グループごとに多少の違いはあったものの、「笑顔」「ほのほのさ」「あかるさ」「背景」などの基準でランキングをつけていた。背景よりも人の方に注目している生徒が多かった。
- ・「物が多すぎて大変そう」「ごちゃごちゃしていて何だかわからなかった」などという理由で、2つのチームとも日本を最下位にしていたのが興味深かった。

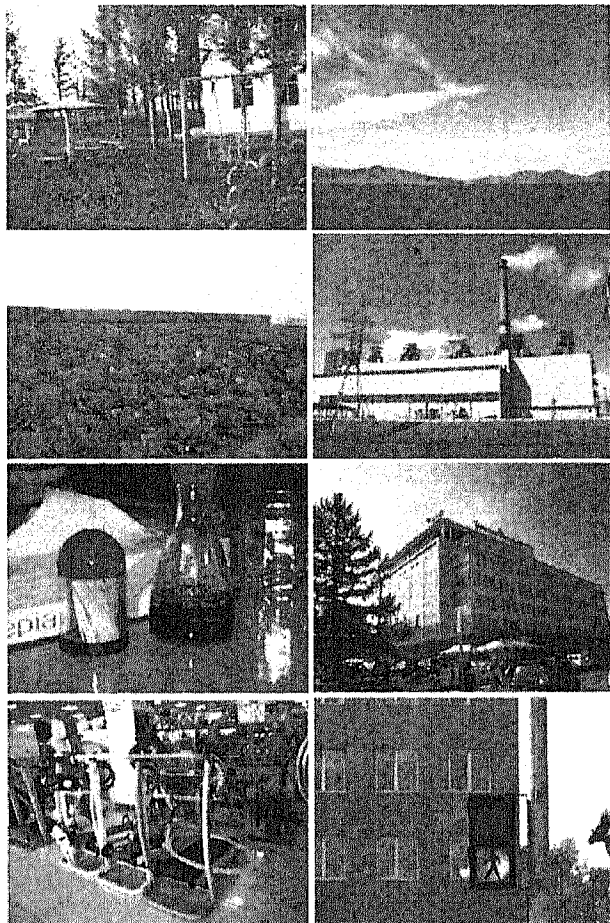
生徒の感想

- ・世界には知らない国がたくさんあるということがわかった。
- ・グループによってランキングの順番が異なっていて、違った角度から見る事ができて楽しかった。
- ・ランキングを作るときに、友達と思ったことが違って、合わせるのが難しかった。
- ・6つの国の写真を見て、それぞれ違うけど、全部個性的で素敵だと思った。

3時限目：【モンゴルについて知ろう】

モンゴルで撮影した写真を20枚ぐらい用意し、モンゴルの写真はどれかを当てるというフォトランゲージをした。モンゴル語が書かれているような写真は一部を隠して提示した。

以下その写真の一部



「これは絶対モンゴルだよ！」「これは絶対に銚子だ！」などと積極的に発言しながら写真を選別する様子が見られた。

実は全部モンゴルで撮ってきた写真だと伝えると、生徒たちは「え〜っ」ととても驚いていた。

生徒の感想

- ・モンゴルにもデパートや発電所があるとは思わなかった。
- ・日本と似ているところがたくさんあって驚きました。
- ・キャベツ畑は絶対に学校の隣の畑だと思ったので、モンゴルと聞いてびっくりした。

4時限目：【日本とモンゴルについて知ろう】

- ①「お金、服、楽器、あいさつ、ご飯、国旗、面積、人口」の8項目について、16枚のカードを日本とモンゴルに分けるというカードゲームをした。


カードを裏返して並べ替えると、その国を代表するものが写った1枚の写真が完成するという仕組み。写真を完成させた後、モンゴルと日本を比べてみた。お金は現物を見比べたり、面積は地図帳で見比べてりして比較しやすいようにした。

- ②モンゴルクイズをしたり、馬頭琴の演奏を視聴したり、スーテーツアイを飲んだりしてモンゴル文化に触れた。スーテーツアイやお菓子を恐る恐る口にしている生徒の姿が印象的であった。

生徒の感想

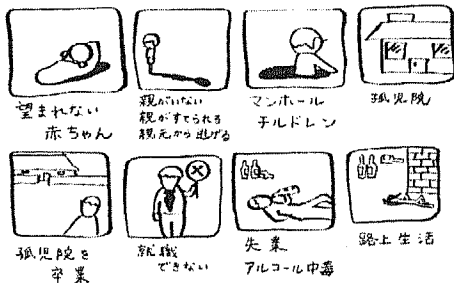
- ・日本とモンゴルは、食べ物も飲み物もまったく違うと思っていたけど、同じものがあるとわかった。
- ・日本と違って、モンゴルは人口がとても少ないということがわかった。
- ・外国にはどんな仕事があるのか、どんな文化なのかを知ってみたいになった。

**5時限目：【貧困や国際協力について考えよう】**

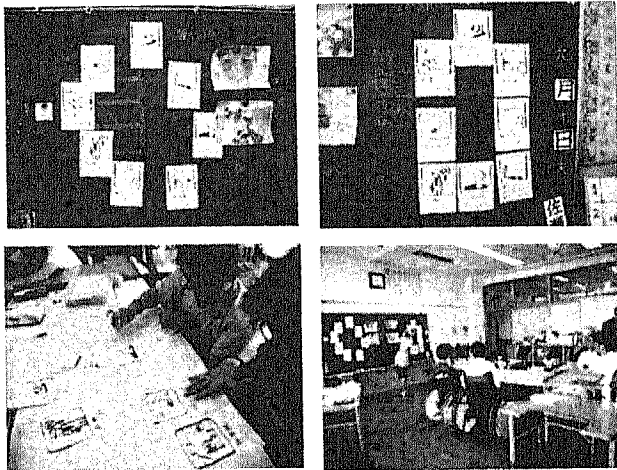
①子どもの表情が対照的な2組4枚の写真を提示し、感じたことを発表させた。「笑顔がすてき」「楽しそう」「さみしそう」などという感想がでた。

4枚に写っている子どもたちには「親がいない」「住む場所がない」「貧困」という共通点があるという説明をした。

②なぜこのようなことが起きるのかを考えるために『貧困カード』を使用した。2つのグループに分かれて、この8枚のカードを円になるように並べ替え、並べた理由を班の意見として簡単に発表しあった。



【貧困カード】



【授業の様子】

③できあがった「貧困のサークル」を断ち切るためには、どうすればよいかを考え、発表しあった。

④国際協力をより身近に感じてほしいと思い、JICAについての簡単な説明をして、貧困のサークルを断ち切ろうと実際に活動をしている、青年海外協力隊のインタビュー映像(モンゴルで撮影)を紹介した。

**生徒の感想**

- ・他のグループと貧困カードの並べ方が違ったので、人によっていろんな考え方があったなと思った。
- ・自分はとても裕福なんだなと思いました。
- ・青年海外協力隊員のインタビューを見て、大変なことや苦労していることがたくさんあるのに、それでも何かできないかと活動していることがすごいなと感じました。

**6・7時限目：【ボランティアヘルスワーカーの取り組みを体験しよう】**

私自身がモンゴルのボルガン県でのボランティアヘルスワーカーの取り組みを見て、人とのつながりの大切さを感じ、助け合って生きていることに強く感激したので、生徒たちにもそのようなことを感じてほしいと思い、ロールプレイを取り入れた。

まず初めに、ボルガン県第3地区の概要説明をした。次に役割カードを選んで、それぞれの役割を決めた。台本に目を通して、各自簡単に練習をした。ボランティアヘルスワーカー「有」と「無」の台本をそれぞれ用意した。最後に2つの異なる状況を体験しての感想や2つを比べて感じたことを書いて発表した。

**生徒の感想**

- ・ワーカーさんがいないときは医者との連絡がとれなくて不安だった。
- ・ワーカーさんがいてくれて安心した。助かった。
- ・ワーカーさんの一言が励みになった。

ロールプレイ後、生徒の口から「助け合い」「つながり」という言葉が自然と出てきた。自分の身に置き換えて考えてほしいと思い、普段の生活で「人とつながっている」と感じる体験談を発表し合った。

また、今後毎日の生活の中で自分にもできる「助け合い」や「人との接し方」についても発表し合った。

「身の回りの人に感謝する」「誰かに何かをしたい」「友達や家族を手助けする」。このようなこと全てが国際協力の大きな第一歩である！ということをして、授業を通して生徒たち自身が感じ取ってくれたように感じた。

**生徒の感想**

- ・みんなの感想を聞いて、みんなそれぞれ思っていることが違ったけれど、どれもあっていると思った。
- ・困っている人がいたら手を差し伸べたり助けてあげたりすることがやっぱり大切だと感じた。
- ・人はみんな助け合わないと暮らさずらいんだなと思った。

**8時限目：【自分たちにできる国際協力について考えよう】**

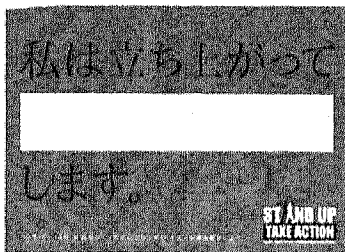
7時限目までの授業を、模造紙を見ながら自分や友達を感じたことや内容を振り返り、自分の中にフィードバックする機会とし、その後、一番心に残ったことを発表し合った。

自分たちにもできる国際協力の第二歩目として「STAND UP TAKE ACTION」のイベントを紹介し、次回までに宣言する内容を考えてくることとした。参考資料として「家庭でできる温暖化対策」のプリントを配布した。

**9時限目：【スタンドアップをしよう】**

実行あるのみ！宣言シートに各自が自分にもできることや、すでに取り組んでいることを記入して宣言し、立ち上がった！下の写真を「STAND UP TAKE ACTION」のホームページに登録し、世界中で行われた「STAND UP TAKE ACTION」に参加することができた。

STAND UP 宣言シート



登録した写真



後日談ではあるが、「STAND UP TAKE ACTION ユニークフォトコンテスト」の入賞作品にこの写真が選ばれた。(http://www.standup2015.jp/report/2009/contest.html)

私はもちろんのこと、生徒たちもとても喜んでおり、大きな自信につながったようで、「これからも継続してがんばります！」「家族にも伝えます！」と報告してくれた。一人ひとりが身近な取り組みを行動に移すことが立派な国際協力であるということ、体験を通して実感し、授業全体の達成感を味わうことができ、とても効果的なまとめとなったように思う。

**〔4〕 授業実践を終えて**

モンゴルでの研修を通して「つながり」というキーワードが浮かび上がった。私がモンゴルで感じたことや見てきたことを、どうにかして生徒の「実感」にもっていきたいという一心で授業構成を考え実践した。

国際理解教育・開発教育というと、とても大きな問題で難しいように聞こえるが、自分や他者を理解することや、人と人はつながっているんだということも身近なミクロの視点で考えることができるということを知り、生徒にもそのことを伝えることができたことが一番の収穫であったように思う。

課題も成果もあるが、今回の授業実践を終えてみて、やっと国際理解教育・開発教育のスタート地点に立てたような気がしている。改善を加えながら今後も継続していくことが大切だと感じている。

**〔5〕 参考文献（引用文献・参考資料）**

- 『地球家族 世界30か国のふつうの暮らし』ピーター・メンツェル TOTO出版 2008
- 『先生とNGOが手をつないだ！地域でつくる国際理解教育—学習プログラム案作成報告書—』（財）福島県国際交流協会 2008
- 『全国地球温暖化防止活動推進センター』（http://www.jccca.org）
- 『NGO ゆいまーるハミングバース』（http://yuimar.org/）
- 『日本ユニセフ協会 子どもと先生の広場』（http://www.unicef.or.jp/kodomo/）

【6】 使用教材

● 『フォトランゲージ用写真』 (「地球家族」から)

【1、2 時限目使用】

● 『モンゴルの写真』 【3 時限目使用】

● 『16 枚のカード』 【4 時限目使用】

● 『貧困カード』 【5 時限目使用】

● 『ロールプレイの台本』 【6、7 時限目使用】

【台本】

モンゴルホルカン病の取り組みを体験しよう！  
～ロールプレイングをして人とのつながりの大切さを体験しよう～

※1 回目※

<役 割>  
①ツヴェン (医者) ②ミガ (住人A) ③ダワニム (住人B)  
④ウーレ (住人C) ⑤シラ (住人D)

ツヴェン：私は、モンゴルホルカン病の感染症科の医師ツヴェンです。

ダワニム：私は年のせいか、最近腰が痛むんですよねえ...

ミガ：私は元気もりもり！お酒が大好きで毎日たくさん飲んでます！

ウーレ：私は最近お酒の調子があまりよくなって、まあなんかが暮らしていますよ。

シラ：私の家では子どもが生まれました、ふ～めでたいな～

ダワニム：腰が痛むから病院に行きたいんだけど、腰が痛いし、病院に行ってもお医者さんがいるかどうかかわからないしねえ...

ウーレ：お腰が痛いから一度お医者さんに診てもらいたいんだけど...でも病院に行くとなんともないのも恥ずかしいしねえ...

シラ：子どもが生まれたのはいいけれど、...ちゃんと成長しているのかなあ？？お世話の仕方はこれで合っているのかなあ？？でも誰に聞けばいいかわからないしねえ...

ミガ：ふ～今日もお酒をたくさん飲んでぐっすり眠るぞ～！！

ツヴェン：あんまり患者さん来ないし、そろそろ今日は帰りにするが～！！

ウーレ：お腰の痛みが激しくなってきたから病院に来たけど...もう帰っているよ～！！あ～あ...早くお医者さんがいるかどうかかわからないのになあ...

ミガ：いつものようにお酒を飲んでいただけなのに...腰が痛くて動けないなあ...風邪なのかなあ...それともお酒の飲みすぎなのかなあ...う～どうしよう...

モンゴルホルカン病の取り組みを体験しよう！  
～ロールプレイングをして人とのつながりの大切さを体験しよう～

※2 回目※

<役 割>  
①ツヴェン (医者) ②ミガ (住人A) ③ダワニム (住人B)  
④ウーレ (住人C) ⑤シラ (住人D) ⑥ワーカー

ツヴェン：私は、モンゴルホルカン病の感染症科の医師ツヴェンです。

ダワニム：私は年のせいか、最近腰が痛むんですよねえ...

ミガ：私は元気もりもり！お酒が大好きで毎日たくさん飲んでます！

ウーレ：私は最近お酒の調子があまりよくなって、まあなんかが暮らしていますよ。

シラ：私の家では子どもが生まれました、ふ～めでたいな～

ダワニム：腰が痛むから病院に行きたいんだけど、腰が痛くて歩けないし、病院に行ってもお医者さんがいるかどうかかわからないしねえ...まずはワーカーさんに電話してみようかな。

～電話～  
ダワニム：腰が痛いので病院に行きたいのですが...。

ワーカー：そうですね、整形外科の先生は今日はお休みですが、明日は来ますので、明日一緒にいきましょう！10時にお迎えに行きますね！

ダワニム：ありがとうございます。ワーカーさんがいてくれて助かります。

◎ワーカーさんは、患者と住人をつなぐ役割があります。

◎ワーカーさんは、担当の家を訪問して住人の健康状態の様子を聞く役割があります。

ワーカー：こんにちは、ウーレさん、最近調子はどうですか～？？

ウーレ：お腰が痛いから一度お医者さんに診てもらいたいんだけど...でも病院に行くとなんともないのも恥ずかしいしねえ...

ワーカー：そうですね、では一緒に病院に行って検査をしてもらいましょう！なんともなければ、それで安心できるからね！お医者さんがいるかどうか、連絡してみますね！

～電話をする～  
ワーカー：もしもし、ワーカーです。ウーレさんが腰が痛いと言っていますので、今から病院に行ったら診ていただけますか？？

ツヴェン：もしもし、大丈夫ですよ！お清らしています。

～電話をきる～  
ワーカー：連絡がつかないましたよ！早く行かなくてはいけませんので、病院に行ってみましょう！

ウーレ：ありがとうございます。一人ではお力不足だったので、とてもうれしいです。

◎ワーカーさんは、病院の連絡をかって住人が病院に行くのを助けるという役割があります。

ワーカー：こんにちは、シラさん、お子さんの様子はどうですか～？？

シラ：子どもが生まれたのはいいけれど、...ちゃんと成長しているのかなあ？？か、お世話の仕方はこれで合っているのかなあ？？つづいていく不安があります。

ワーカー：そんなときは、この母子手帳をみるようにしましょう！記録用だけでなく、子どもの成長についてもここに書いてありますから、お世らまにじっくりと子育てをしてくださいな！そして、何かわからないことがあったら、いつでも電話してくださいね！

シラ：そうですね！ありがとうございます。

◎ワーカーさんは、病気のケアだけでなく、赤ちゃんの様子や健康をチェックをするという役割があります。

ワーカー：ミガさん、こんにちは。最近調子はどうですか～？？

ミガ：ふ～元気ですよ～！今日もお酒をたくさん飲んでぐっすり眠りますよ～！！

ワーカー：元気ならならによいです。でも、お酒の飲みすぎは身体にあまりよくないですよ！今は元気でも、飲みすぎたら肝臓が弱くなってしまいます。家族も心配だと思いますから、お酒はほどほどにね！

ミガ：お酒を飲みすぎたら、肝臓が悪くなるなんて知らなかったよ！今、元気だからいいかなと思っていたけど、そうじゃないんだね。家族に心配をかけないためにも、今日はお酒を飲まないで寝ようかな。

ワーカーさん、貴重な情報をありがとうございます。

◎ワーカーさんは、訪問して得た情報を医師に伝えるという役割があります。

ワーカー：ツヴェン先生、今日の訪問の報告をします。～報告～省略～

ツヴェン：そうですね。ありがとうございます。私は病院にいないではならないから、こつこつと住人の様子を見て伝えてくれてとても助かります。明日もよろしくお願ひします。

【役割カード】

<p>役割カード</p> <p>名前：ツヴェン（47歳）</p> <p>役割：町の病院の医者。</p> <p>病院には電話はある</p> <p>救急車などの車はない</p>	<p>役割カード</p> <p>名前：ミカ（55歳）</p> <p>役割：住人</p> <p>奥さんと子どもと孫の6人暮らし</p> <p>特に病気はしてなくて元気</p> <p>毎晩お酒をたくさん飲む</p>
<p>役割カード</p> <p>名前：ダワニム（70歳）</p> <p>役割：住人</p> <p>奥さんと二人暮らし</p> <p>病気はしていないが、膝が痛くて</p> <p>歩くのが大変</p>	<p>役割カード</p> <p>名前：ウーレ（43歳）</p> <p>役割：住人</p> <p>奥さんと子どもと4人暮らし</p> <p>病気はしていない。</p> <p>最近お腹の調子があまりよくない</p>
<p>役割カード</p> <p>名前：シラ（25歳）</p> <p>役割：住人</p> <p>奥さんと子どもの3人暮らし</p> <p>赤ちゃんが生まれたばかり</p>	<p>役割カード</p> <p>名前：ワーカー（45歳）</p> <p>役割：ボランティアヘルスワーカー</p> <p>住人。</p> <p>旦那さんと子どもと5人暮らし</p>

●『STAND UP 宣言シート』【9 時限目使用】



# 学校・教員のための事業紹介

## ✿ JICA 地球ひろば訪問

<http://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>



\* プログラム例 (120分) プログラム時間についてはご相談ください。

時間	内容/活動
40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内見学</li> <li>・探検シートをもとに館内を見学</li> <li>・展示物を通して世界の諸問題の現状を知る</li> </ul>
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA や日本の国際協力、協力隊事業の説明</li> <li>地球案内人とともに探検シートで情報共有を行い、国際協力についての理解を深める</li> <li>・質疑応答</li> </ul>
50分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地体験談(青年海外協力隊等)またはワークショップ</li> <li>・現地語を体験してみよう!</li> <li>・現地での生活の体験談を聞いてみよう!</li> <li>・子どもたちの生活について質問しよう!</li> </ul>
10分	・アンケート記入

### スペシャルオプション 「食を通して世界を知る」

異国情緒あふれる空間で途上国の珍しい料理を試してみませんか? 手でカレーを味わうもよし、食材から世界とのつながりを実感するのもよし、食を通じて異文化にふれることができます。団体向けメニュー1500円~。

ご予約はカフェ・フロンティア (03-3400-5533) まで!

### 入館無料! プログラム参加は要予約

修学旅行や社会科見学等で、ぜひご利用ください!

#### \* 申込手順

ホームページのカレンダーで受付状況を確認  
→ 電話で申し込み → 申込書を FAX

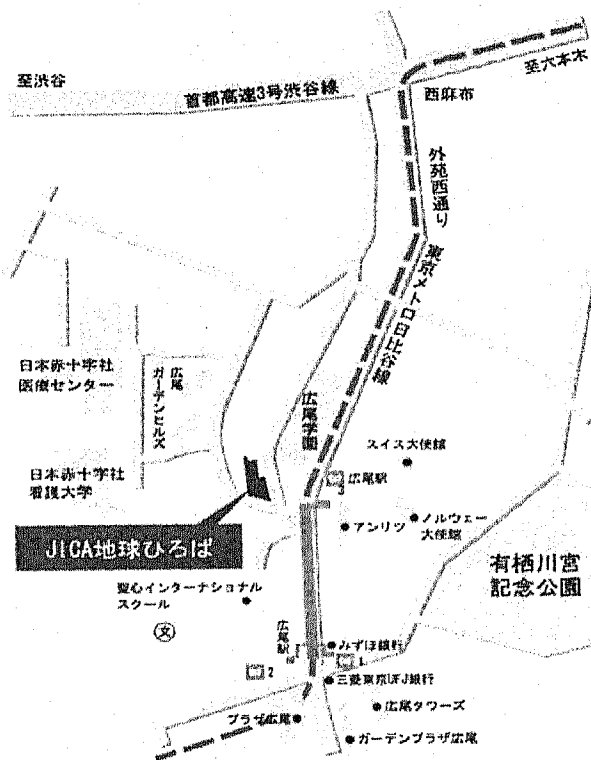
#### \* 提出書類

- ・申込書 (1カ月前まで) ・質問リスト
- ・参加者リスト (2週間前まで)

問合せ・申込先

### JICA 地球ひろば地球案内デスク

フリーダイヤル: 0120-767278  
TEL: 03-3400-7278 FAX: 03-3400-7264  
E-mail: [chikyuhiroba@jica.go.jp](mailto:chikyuhiroba@jica.go.jp)  
10:00-20:00 (火-金) 10:00-18:00 (土・日・祝日)  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24



[交通案内] 東京メトロ日比谷線 広尾駅下車 (3番出口) 徒歩1分



# 学校・教員のための事業紹介

## ❁ JICA 国際協力出前座

[http://www.jica.go.jp/hiroba/study/at\\_school/haken.html](http://www.jica.go.jp/hiroba/study/at_school/haken.html)

開発途上国の実情を知り、日本との関係や、国際協力がなぜ必要なのかを考える機会として、開発途上国で活動してきた「青年海外協力隊」や「シニア海外ボランティア」経験者を講師として派遣するプログラムです。

学校を中心に、毎年全国で約 2,000 件以上実施され、20 万人以上が受講しています。

～各校のテーマに合わせた講座内容を組み立てます～

- ❁ 開発途上国の文化や生活を知る
- ❁ 開発途上国の暮らしから自分たちの生活を見つめる
- ❁ 国際協力を通じて自分の生き方を考える

命、人権、道徳、  
奉仕、環境、食育、  
スポーツ、進路…



講師の交通費・謝金（7千円目安）は依頼者様のご負担となります（詳細はお問合わせ下さい）

\* 講座の実施例 —プログラム時間は 45 分からご相談に応じます—

対象	内容	協力隊赴任国・職種
小学校 6 年生 180 人	子ども達の遊び、歌を通しての異文化理解	ヨルダン（青少年活動）
中学校 2 年生 172 人	「命」の大切さ	マラウィ（エイズ対策）
中学校 全校生徒 410 人	児童労働・ストリートチルドレンの実態について	ネパール（野菜）
高校 1 年生 31 人	アフリカの人々の生活と自分たちにできること	ザンビア（理数科教師）
高校 全校生徒 240 人	環境教育を専門とする立場での国際協力について	チリ（環境教育）
大学生 35 人	JICA の仕事、ジェンダーと開発プロジェクト	ケニア（村落開発普及員）

### \* 先生の感想

- 講師が質問を投げかけたり、実際の現地の物を持ってきてくださったことで、生徒たちは皆関心を持って聞くことができた。「死」「命」の話は考えさせられることが多かったようだ。
- 実際に海外で活動された方の話は説得力があり、現地の映像を使った生の情報に生徒たちは引き込まれていた。
- 協力隊を身近に感じることができた。国際的な場で働く道を開くきっかけになればと思う。

### \* 子どもたちの感想

- 毎日笑って過ごすことが本当の「平和」なのかもしれないと思った。
- 生きたくても生きられない人がたくさんいるのだから、命は絶対無駄にしない。
- 勉強が嫌だと言ったり、自分のやりたいことだけやるのではなく、良い環境にいる私たちが勉強し、一人でも多くの人々が苦しまない方法を考え、助けるべきだと思った。

## 学校・教員のための事業紹介

### ✿ JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

<http://www.jica.go.jp/hiroba/join/sanka/essay/index.html>

次世代を担う中・高校生を対象に、開発途上国の現状と国際協力の必要性について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、自分たちがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として実施しています。上位入賞者は、夏休みに研修旅行にご招待します。参加賞・各種賞も用意しています。ぜひご応募下さい！2009年度は、73,536人の応募がありました！



2009年7月マレーシア研修旅行

#### 【中学生の部】

400字詰原稿用紙3枚以内

#### 【高校生の部】

400字詰原稿用紙4枚以内

【募集期間】6月～9月中旬

【結果発表】12月下旬

#### 平成21年度募集テーマ

#### 《 行動 ～地球と私のためにできること～ 》

友だちや家族と話したこと、学校で習ったこと、本や新聞、テレビなどを通じて感じ考えたこと、自分の体験・発見から知って実行したこと、など。題材は自由です。

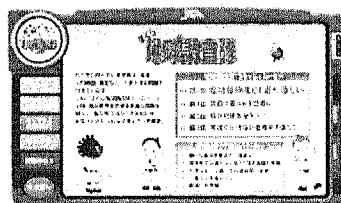
### ✿ 開発教育のための教材

<http://www.jica.go.jp/hiroba/educator/index.html>

#### \* ホームページ「ぼくら地球調査隊」

水問題、砂漠化、人口増加、環境など地球規模の問題をアニメーションを使ってわかりやすく解説しています。

<http://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html>



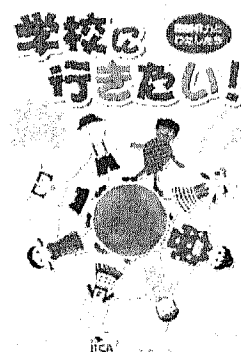
#### \* 開発教育用教材「JICA フォトランゲージ・キット」

教師や NGO と共同で作成しました。途上国の風土や暮らしぶりを生き生きと表現した写真教材です。途上国の現状や課題について理解を深めるのにご活用いただいています。

- 本教材には、写真を使った6通りの授業案と7ヶ国のデータを収めた解説書が付いています
- 写真 (A4版カラー35枚)、冊子 (解説書 A4版 20ページ)

#### \* 「学校に行きたい！」

学校に行きたいけど行けない子どもたちの問題をわかりやすく説明しています。途上国、小学校での総合的な学習の時間などにおすすめです。全国の JICA 国内機関と JICA 地球ひろばで、無料でお配りしています。



# 学校・教員のための事業紹介

## ✿ 教師海外研修

<http://www.jica.go.jp/hiroba/study/other/kaigaikensyu/index.html>



国際理解教育および開発教育に興味のある学校の先生を対象に、国内研修実施後に、10日間ほど開発途上国で研修をおこなうプログラムです。帰国後、参加者は、研修で得られた経験をもとに、それぞれの教育現場において国際理解・開発教育に関する授業を実践し、その結果を授業実践報告書として公開させていただきます。

[平成21年度後援：文部科学省、外務省、各都県教育委員会]

【募集期間】毎年4月～5月初旬

(全校に募集要項を送付します。)

【国内研修】3回(6月に2回、海外研修出発日前日)

【海外研修】8月(約10日間)

【帰国時研修】8月下旬～9月(1日)

【授業実践報告会】1月～2月

【その他】報告書提出

～ 感想 ～

この研修の参加教員をはじめ、現地で活躍する日本人、JICA関係者、皆が意欲的で魅力的で輝いていた。出会ってよかった、参加して本当に良かった。

そして、国際理解、開発教育の奥深さを楽しみ感じ、私が教員になった理由の一つであった、人とコミュニケーションをとる楽しさも再発見できた。

## ✿ 開発教育指導者研修&各種セミナー

主に学校で国際理解教育を担当されている先生方を対象に、開発教育・国際理解教育の担い手の育成を目的とした研修を実施しています。教材の作成と活用方法、参加型学習の手法等を取り上げた実践的な研修を行っています。

詳しくはお近くのJICAデスクにお問合せください

<http://www.jica.go.jp/hiroba/madoguchi/index.html>

✿ 栃木県	(財) 栃木県国際交流協会内	028-621-0777
✿ 群馬県	(財) 群馬県観光国際協会内	027-243-7271
✿ 埼玉県	(財) 埼玉県国際交流協会内	048-833-2992
✿ 千葉県	千葉県国際交流センター内	043-297-0245
✿ 東京都〔23区〕	JICA 地球ひろば	03-3400-7713
✿ 東京都〔23区以外〕	八王子市役所市民活動推進部学園都市文化課内	042-620-7409
✿ 新潟県	(財) 新潟県国際交流協会内	025-290-5650
✿ 山梨県	山梨県国際交流センター内	055-228-5419

## 参加者氏名

教員氏名	県	所属校名	授業実践学年	授業実践教科
梅 沢 智 代	埼玉県	ふじみ野市立上野台小学校	小1	生活、学活、道徳
増 永 文 子	千葉県	柏市立柏第三小学校	小1	国語、学活、外国語活動
平 澤 由美子	埼玉県	加須市立加須南小学校	小3	総合的な学習の時間
吉 村 珠 美	埼玉県	川越市立高階南小学校	小5	国語、外国語活動
日 坂 修	埼玉県	さいたま市立大砂土中学校	中1	社会
谷 津 勇 太	埼玉県	久喜市立久喜中学校	中2	総合的な学習の時間
井 戸 秀 紀	埼玉県	新座市立第三中学校	中3	総合的な学習の時間、学活
沼 尾 悠	埼玉県	さいたま市立大砂土中学校	中3	総合的な学習の時間、道徳
鎌 田 葉 子	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	高1	総合的な学習の時間
久保田 縁	千葉県	千葉県立成田国際高等学校	高1	総合英語
藤 井 剛	千葉県	千葉県立千葉高等学校	高2	政治・経済
森 裕紀子	千葉県	千葉県立銚子特別支援学校	高1～3	社会

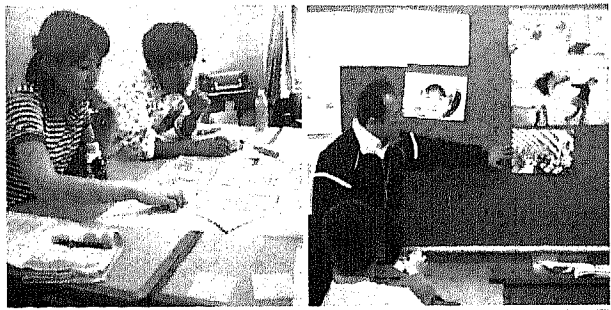
## 海外研修同行者より

モンゴルの短い夏の10日間。強烈な日差しと抜けるような青空、緑の草原に点在するゲルと人より断然多い家畜の群れ。大自然の中でずっと続けられてきた人々の暮らしを垣間見ることができました。

一方、国内の急激な変化による歪みが社会や経済に大きな課題をもたらしていることを都市や郊外のさまざまな所で感じながら、その中で日本の国際協力がどのように行われているか、現場を視察したり、現地で活動する日本人の方々の熱い思いに触れたりすることができました。

モンゴル参加の先生方の意識がこの10日間で大きく高まったことは言うまでもありませんが、第2のピークはやはり授業実践。学校の子どもたちに伝えたいことが溢れそうな中で、おそらく最後は自分の心に一番響いたことを授業のバックボーンに据えたのではないのでしょうか。

モンゴルで見た課題は解決の難しいものも少なからずありましたが、モンゴルの人々と見えない糸でつながっている私たちが、その糸と互いに助け合うことの大切さに気づいて、先生方が目の前にいる子どもたちに教え始めたことはとても大きな一歩だったと確信しています。感謝と次の一歩への期待を込めて。



平成21年度  
教師海外研修  
授業実践報告書集  
埼玉・千葉県教員  
【モンゴルコース】



独立行政法人 国際協力機構  
JICA地球ひろば

〒150-0012  
東京都渋谷区広尾4-2-24  
Tel: 03-3400-7717  
<http://www.jica.go.jp/hiroba/>